

その他

-気候変動を踏まえた河川計画の見直しについて-



勢田川流域等浸水対策
緊急プロジェクト

勢田川流域等浸水対策協議会
令和6年12月20日

河川計画の見直し（近年、水災害が頻発1/2）

➤ 短時間強雨の発生の増加や台風の大型化等により、近年は浸水被害が頻発しています。

毎年のように全国各地で浸水被害が発生（令和元年～4年）

【令和元年東日本台風】



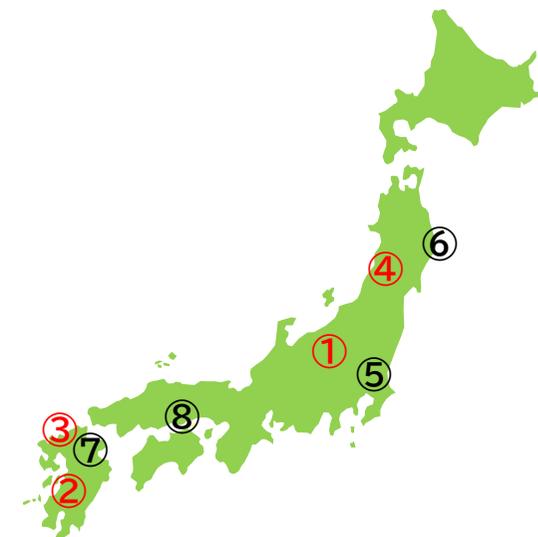
【令和2年7月豪雨】



【令和3年8月からの大雨】



【令和4年8月からの大雨】



※ここに例示したもの以外にも、全国各地で地震や大雨等による被害が発生

河川計画の見直し（近年、水災害が頻発2/2）

毎年のように全国各地で浸水被害が発生（平成27年～30年）

【平成27年9月関東・東北豪雨】



【平成28年8月台風第10号】



【平成29年7月九州北部豪雨】



【平成30年7月豪雨】

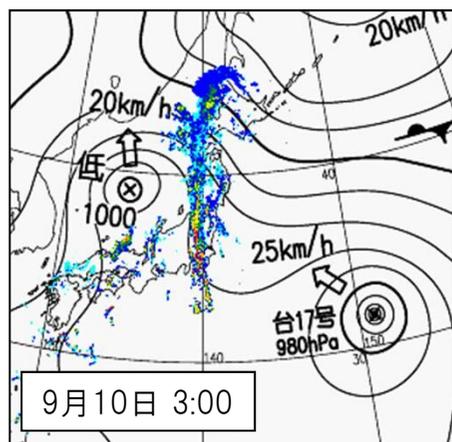


※ここに例示したもの以外にも、全国各地で地震や大雨等による被害が発生

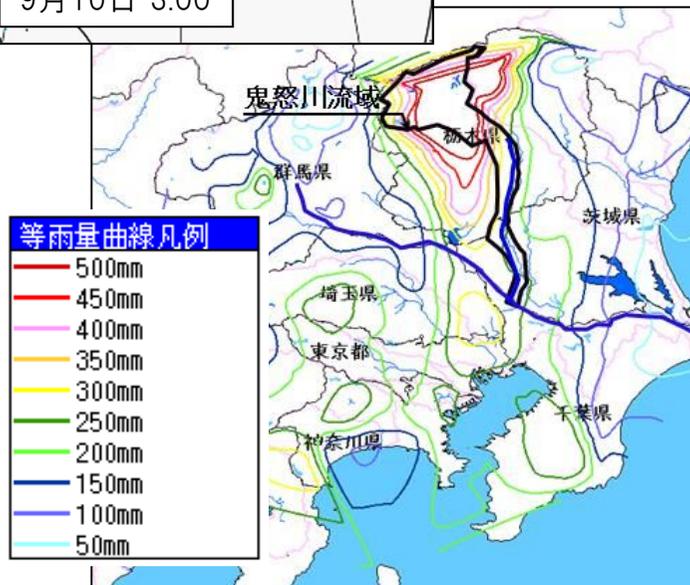
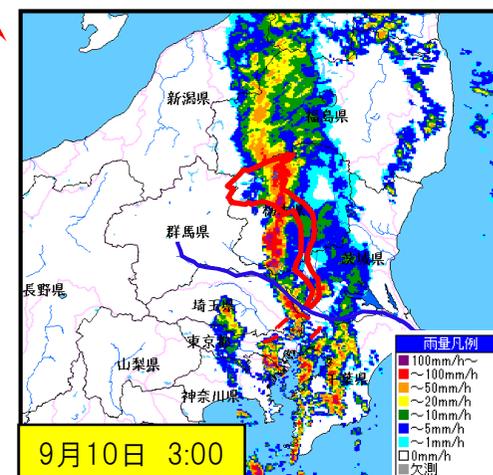
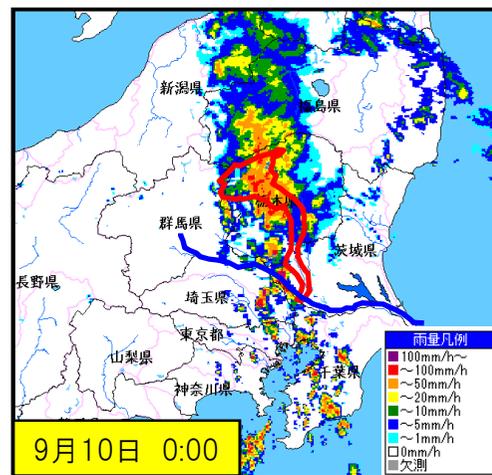
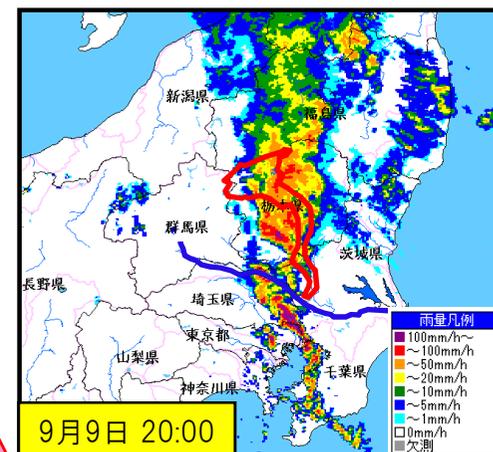
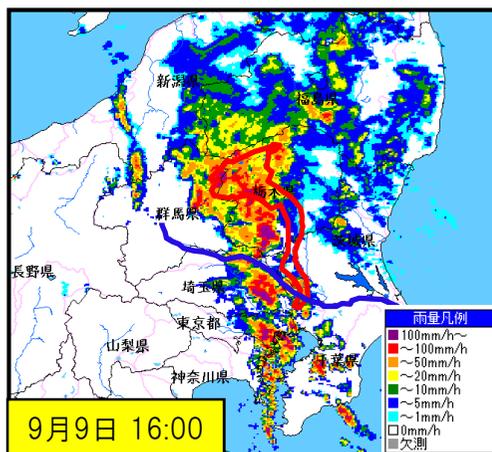
河川計画の見直し（平成27年9月関東・東北豪雨1/2）

▶ 台風18号及び台風から変わった低気圧に向かって南から湿った空気が流れ込んだ影響で、記録的な大雨となりました。

気象・降雨の概要



レーダ雨量図



等雨量線図(8日~10日累加雨量)

河川計画の見直し（平成27年9月関東・東北豪雨2/2）

- ▶ 堤防決壊等に伴う氾濫により、常総市の約1/3の面積に相当する約40km²が浸水し、常総市役所も孤立しました。

鬼怒川の氾濫による浸水状況



常総市役所から撮影(撮影日:9/11)



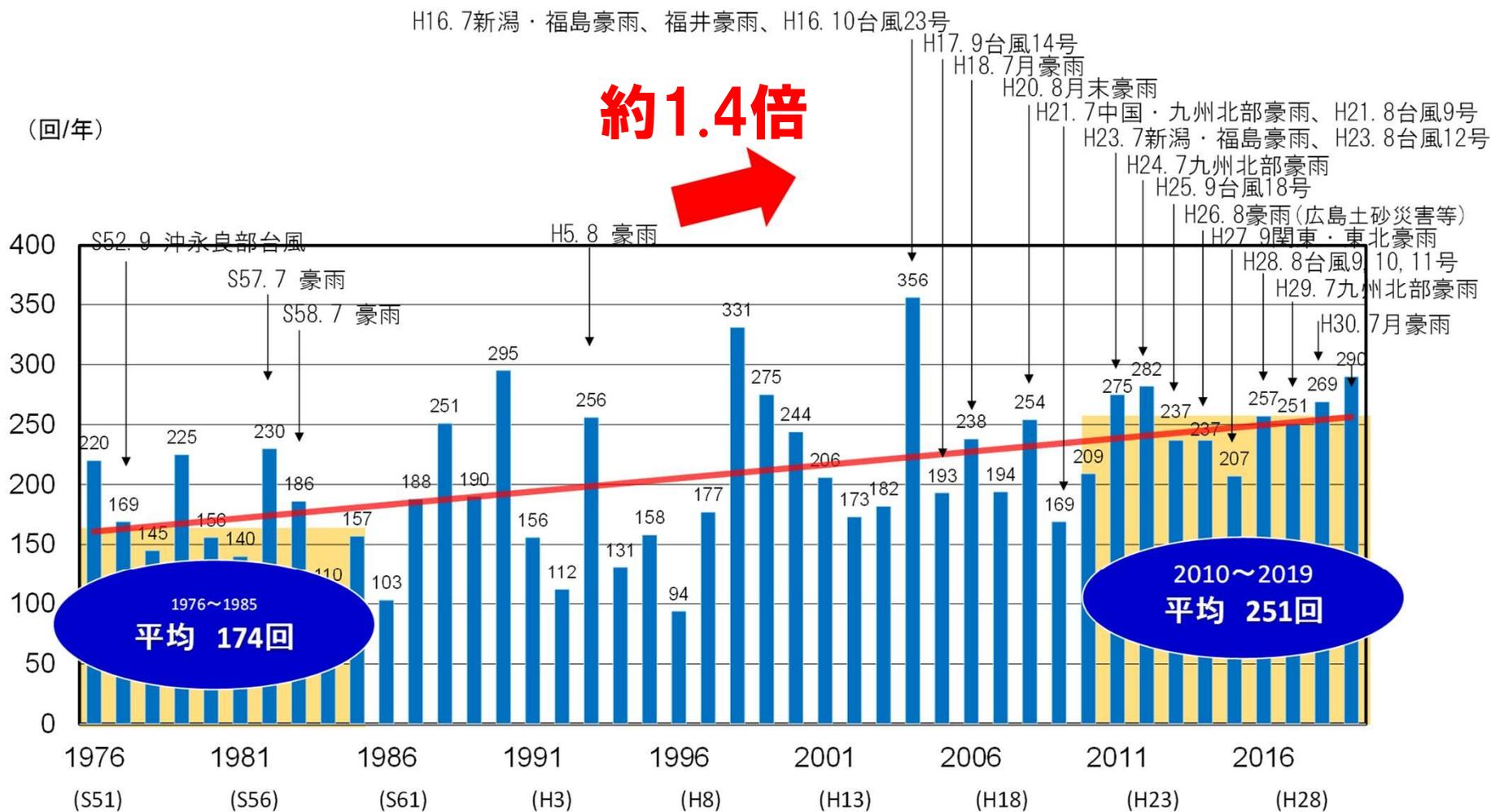
【決壊地点近傍】家屋等の流出状況(撮影日:9/11)

- : 氾濫域の最大総浸水面積(40km²)
国土地理院公表資料
- : 決壊箇所
鬼怒川左岸21.0km
- : 浸水範囲内の建築物

河川計画の見直し（近年、雨の降り方が変化）

- ▶ 近年、時間雨量50mmを超える短時間強雨の発生件数が増加するなど、気候変動の影響により、水害の更なる頻発・激甚化が懸念されています。

1時間降水量50mm以上の年間発生回数（アメダス1,000地点あたり）



河川計画の見直し（河川計画見直しの位置付け）

- ▶ 河川整備基本方針・河川整備計画については、「過去の降雨実績に基づく計画」から「気候変動による降雨量の増加等を考慮した計画」に見直すこととしています。

第109回河川整備基本方針検討小委員会資料

気候変動を踏まえた計画へ見直し

治水計画を、「過去の降雨実績に基づく計画」から「気候変動による降雨量の増加などを考慮した計画」に見直し

これまで

洪水、内水氾濫、土砂災害、高潮・高波等を防御する計画は、これまで、過去の降雨、潮位などに基づいて作成してきた。

しかし、気候変動の影響による降雨量の増大、海面水位の上昇などを考慮すると現在の計画の整備完了時点では、実質的な安全度が確保できないおそれ

今後は

気候変動による降雨量の増加※、潮位の上昇などを考慮したものに計画を見直し

気候変動シナリオ	降雨量	流量	洪水発生頻度
2℃上昇相当	約1.1倍	約1.2倍	約2倍

※ 世界の平均気温の上昇を2度に抑えるシナリオ（パリ協定が目標としているもの）

